

# こいた 小板まきばの里通信 Vol 13.3

～植物の和名や別名の由来を調べてみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

## ■キャンプ場周辺で春の植物を探索しよう！

コバノミツバツツジ    キランソウ(地獄の窯の蓋)    タチツボスミレ・オオタチツボスミレ    ミツバツチグリ    ミヤマシキミ    クロモジ    ヤマザクラ

ギンリョウソウ(ユウレイタケ)    カキドオシ    ムラサキサギゴケ    ヤマナシ    ニオイスマレ    ヒメオドリコソウ    イワカガミ

## ■里山の自然観察 ～植物の和名や別名の由来を調べてみよう～

遅咲きのヤマザクラが咲くころになると、里山は色とりどりの新緑に彩られます。気温が高い晴れた日にはウグイスやキツツキ等の春の鳥たちの声に交じって、「ポポン、ポポン」というツツドリや「ピッポ、ピルルピルル」と聞こえるキビタキ等の初夏の鳥の声が聞こえてくるようになります。地面に目を向けると、日に日に伸びていく背の高い草花が育つ前にと、小さな花たちが競うように咲いていきます。直立した茎の上に紫の花をつけているカキドオシは、花が終わるころには茎が地を這うように伸びていきます。その茎が垣根を突き抜けるほどの勢いで伸びていく様子にちなんで「垣通し」と名付けられたのだそう。地面に張り付くように濃い青紫の花をつけているのはキランソウ。この植物の「地獄の窯の蓋」という別名は、いろいろな病気によく効く薬草だったため「どんな病人も治して地獄の釜に蓋をする」という意味で名付けられたのだとか。植物の和名や別名は植物の特徴をとらえてつけられた面白いものがたくさんあるので、これはと思ったらインターネットで名前由来を調べてみましょう。